

茨城県内高等学校家庭科副教材における結城紬設計図案資料の支援

【背景】

茨城県結城市を中心として生産されている結城紬は、代々技術が受け継がれている伝統的な絹織物の和服地で、国の伝統的工芸品に指定されているほか、その生産技術は国の重要無形文化財にも指定されています。

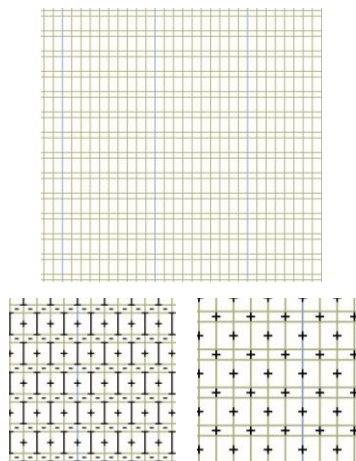


図 1 産地の特殊な方眼紙
亀甲，十字

生産工程は全て手作業によるもので、真綿から手で糸をつむぎ、模様をつける場合は細かな印付けや防染を行い、地機と呼ばれる古来の織機にて織ります。

その結城紬生産において、重要な役目をなすものの一つに「設計図案」があります。

この「設計図案」は、産地で開発された特殊なマス目の方眼に合わせて亀甲や十字など（図 1 参照）によって描かれるもので、反物の柄の「図案」として用いますが、そのほか、生産に必要な糸本数の計算や糸への印付けを行う「設計図」としての役目もあります。

今回、茨城県内高校の家庭科学習の中で郷土の工芸品について興味をもち親しむための副教材に、設計図案のような文様を描く実習が取り入れられることになりました。

それにあたり、当センターでは教材制作の企業から相談を受け、文章のアドバイスやサンプル図の提供を行いました。

【支援内容と支援製品】

当センターでは文章のアドバイスのほか、サンプル図として、1. 意匠図、2. 意匠図を十字の図柄に置き換えた図、3. 意匠図を亀甲の図柄に置き換えた図、を提供しました。

教材ではこれらのサンプル図を用いて、結城紬の図案理解のために「正方形の方眼に十字により自由な発想で文様を描いてみよう」という課題を設定しています（図 2）。

(イ) 茨城県 工芸品「結城紬」の文様を描こう。 詳細の視点 思考・判断・表現 技能 知識・理解

結城紬は設計図案と呼ばれる図案をもとに経くりや機織りをします。
その設計図案は結城紬産地特有の方眼紙に手描きしますが、今回は通常の方眼に自分の自由な発想で、文様を描いてみましょう。

描いた図案から右図のような、設計図案を作成し、これをもとに織物の柄を作る。

左側の例を参考に下の方眼に、十字により自分の好きな文様を描いてみよう。

図 2 教材の課題ページ



図 3 茨城県版学習ノート

○発行物：茨城県高等学校教育研究会家庭部編
「茨城県版学習ノート」

○対象：茨城県内の高等学校

○発行期間：平成 25 年 4 月 1 日から約 10 年間予定

基礎となった事業

平成 24 年度 試験研究指導費（技術相談）

現在の担当部門

紬技術部門

部門長

篠塚 雅子

TEL:0296-33-4154

産業連携室

主任研究員

石川 章弘

TEL:029-293-7213